

## 広島県公立中学校長会研修大会 挨拶

令和元年5月27日

令和元年度広島県公立中学校長研修大会の開会にあたり、ご挨拶を申し上げますと共に、今年度の県中校長会の活動方針を説明いたします。少し長くなりますが、ご容赦ください。

本日は、公務ご多用の中、広島県教育委員会教育長 平川 理恵様をはじめ広島県教育委員会の皆様、広島県都市教育長会会長である福山市教育委員会教育長 三好 雅章様、広島県町教育長会会長である府中町教育委員会教育長 高杉 良知様、そして県中会長を務められました顧問の皆様と、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜りましたこと、あわせて日頃より県中校長会に対しまして格別のご指導、ご支援を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

この春の人事異動におきまして、ご勇退されました34名を含む38名を本会からお送りすることになりました。これまで、私たちをご指導いただきました事に心から敬意と感謝を申し上げます。かわって、この度、ご昇任並びに転任・再任されました校長先生方、46名をお迎え致しました。県中校長会として、心からご歓迎申し上げます。

本年度、県中校長会は、総勢170校168名でのスタートとなりましたが、全員が一丸となり、子どもたち・教職員のために、是正指導を風化させることなく、新しい時代に対応しながら、各校の教育の充実に努めていきましょう。

さて、「グローバル化や情報化、少子高齢化が急速に進展し、社会が大きく変化し続ける中」という言葉が十年来使われてまいりましたが、このようなセリフが陳腐に感じられるぐらいの速さで、社会は変化しています。人工知能・AIが本格的に普及していくに伴い、これまでの延長線上にない劇的な社会変化が予想されています。しかし、その中で求められる力は特殊なものではなく、

むしろ、どのような時代の変化を迎えるとしても、主体性を基盤とした学びに向かう力や人間性が必要であるとされています。例えば、文章や情報を正確に理解し、論理的思考を行うための読解力や、他者と協働して思考・判断・表現を深める対話力等の社会的スキルなど、読み解き対話する力が決定的に重要であるとされています。

また、自然体験や実体験を通じて醸成される豊かな感性や、多くのアイデアを生み出す思考の流暢性、感性や知性に基づく独創性と創造力、好奇心や探求力、実践から学び自信につなげていく力などは、AIでは取って代わることのできない重要な力であるとされています。

一方、AIが本格的に普及していく中、学校はその技術力を活用し、一斉一律の授業スタイルの限界から抜け出し、読解力等を確実に習得させつつ、個人の進度や能力、関心に応じた学びの場が期待されていますし、学習到達度、学習課題に応じた異年齢・異学年集団での協働学習も期待されています。

このような社会の変化を受け止めながら、本年度の県中校長会の基本姿勢、経営方針を策定いたしました。本年度の基本姿勢は「結束し 新たな時代を牽引する」です。まず「新たな時代」ということについて、理由を大きく3つに分けて、説明いたします。

1つ目は、組織をスリム化し、効率的で機動性を高めることを目指し、規約改正を行ったことです。今年度から郡市校長会などを単位とした組織加盟に変えたことで、校長の出張を減らし、自分の学校経営に専念できる環境をつくるとともに、郡市や市町校長会の活動を、より活性化していただくようしました。一方で、郡市校長会代表である理事の皆さんや専門委員会の委員の皆さん一人一人が果たす役割や責任は大きくなり、各郡市校長会の思いや考えを正確に持ち寄り、県校長会での意思決定をより良いものにしていく必要があります。そして、県校長会での意思決定を速やかに、そして正確に郡市校長会に伝えることも求められます。

2つ目は広島市公立中学校長会が、今年度から県中校長会に参加しないという決定をされたことです。広島市中学校長会の分離によって、本会は全県の公立中学校で組織する団体ではなくなり、研究や研修の内容や進め方も検討しなければなりません。一方で中体連や県中研のように、ともに協力して活動して行く場面もあります。また、高校入試のように、片方の意見や力では解決できないこともあります。今後、広島市公立中学校長会との連携を模索していきます。

以上、いわば県中校長会内部の状況の変化を2つ申し上げました。3つ目は、教育を取り巻く環境の変化です。一昨年、学習指導要領が改訂され、昨年度から移行期間に入りました。教育内容や学習評価、教育方法は、本質は変わることはないと考えていますが、必要な変化もあります。そして、部活動についても、様々なガイドラインが示され、大きな転換期を迎えています。そして、これらを包括する環境条件として『働き方改革』があります。人もモノもお金も増えない中で、どのようにして労働時間を削減していくのか、単なる掛け声だけでは、隠れ残業や持ち帰り仕事の増加、活動の主体を社会体育のように見せかけただけの部活動のすり替えに終わってしまいます。本質的な『働き方改革』を進めながら、新たな教育内容を構築していくという、難しい時代に進んでいかねばなりません。

以上の3つのことに取り組む今年1年を「新たな時代」として捉え、基本姿勢に位置付けました。「結束し 牽引する」とは、我々一人一人の校長が、これらの課題を意識し、更には自分の学校の課題や各市町の教育施策を踏まえたうえで、市町校長会や郡市校長会で、そして県中校長会で結束し、学校や様々な活動をリードしていかねばならない、という決意です。

このような状況を踏まえ、県中校長会は未来を担う子どもたちのため、そして、子どもたちを指導する教職員のために、今年度は次の2点に重点を置いて取り組みたいと考えています。

一つは、新たな時代を牽引するために、校長自らが建前や前例にとらわれず、他校や他者、他業種の取組に学び、常に学ぶ姿勢を失わず、改善に取り組んでいくことです。誤解を恐れず申し上げます、県教育委員会や市町教育委員会が発信してくる情報を受け止めるだけでなく、研究団体や大学の研究者、各産業界が発信している研究成果や情報、また、社会変化や海外各国の取組などの情報を積極的に収集し、学校経営に反映していく必要があります。そのことが教育の質を高め、各校の課題解決につながると信じています。

もう一つは、広島県教育の舵取りに寄与するために、学校現場で奮闘する校長の思いを集約して発信をする役割です。文部科学省や教育委員会はそれぞれの施策や方針・展望をもって取組を決定しています。それらが学校現場の実状と乖離することなく、子どもたちのためになる施策、教職員のためになる施策になるよう、関係諸機関と連携し、校長それぞれの思い、校長会の思いが伝えられる取組を進めて参ります。

学校のトップリーダーである校長として、子どもたちのため、教職員のため、校長としての資質能力の向上のために「情報の共有する」ということと「学校の思いを伝える役割を果たす」ことです。この2つを実現させるための基本姿勢が「結束し 新たな時代を牽引する」です。

今日お話をさせていただいたことのほかに、広島県公立中学校長会として、果たすべき役割はたくさんありますが、それらの取組が教育の質を高め、教職員にやりがいと手応えを実感させ、全ての人のライフワークバランスを高めていくことになると信じています。一つ一つの取組の推進に一生懸命に取り組んでいきたいと思っておりますので、各郡市校長会のご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

この後、鳴門教育大学教職大学院 学校づくりマネジメントコース・コース

長，教授 久我 直人先生から「次世代の学校づくりを具現化する学校マネジメントと業務改善の在り方 ―21世紀を生き抜く能力の育成とチーム学校づくり―」と題しまして，ご講演をいただく予定になっております。多くのご示唆をいただけるものと期待しております。

結びに，ご来賓の皆様方に感謝申し上げますとともに，校長先生方にとって，本日の会が実り多いものとなりますよう祈念いたしまして，開会の挨拶とさせていただきます。